
情報機器を活用した国語科の授業

花園小学校（実践・報告者） 戸井田 司

1．単元名 学級新聞を作ろう 第4学年 国語

2．単元の目標

- 知らせたいことが正確に、かつ効果的に伝わるような学級新聞を作る。
 - ・相手や目的に応じて、適切に書くことができる。
 - ・書く必要のある事柄を収集したり選択したりする。
 - ・中心を明確にしながら書く。
 - ・文章の敬体や常体との違いに注意しながら書く。

3．学習指導計画（8時間）

- | | |
|-----------------------------|---------|
| （1）新聞作りの手順や割付などを知る。 | （1時間） |
| （2）書きたい内容について取材し、記事の下書きをする。 | （2時間） |
| （3）見出しを工夫し、文章を作成する。 | （2時間）…… |
| （4）記事に関する絵を作成し、新聞を完成させる。 | （2時間）…… |
| （5）新聞を互いに見合い、よいところを認め合う。 | （1時間） |

印でコンピューターを使用。

4．情報機器活用の意図

「国語」という教科の視点から考えた場合、コンピューターの画面は「紙」であり、マウスは「鉛筆」である。“「紙」と「鉛筆」を使って学習を行う”国語の学習でも、情報機器の活用が広がるように、今回はこの視点に立って実践を行うことにした。

児童は、社会科や総合学習などで、新聞作りを数多く経験している。見出しや文字の色を工夫して見栄えのある新聞を作り上げることのできる児童もいるが、その反面、書くことに興味が持てず、新聞作りに嫌悪感を抱く児童もいる。そこで、本単元では、児童が興味・関心を持って取り組むことができるよう、児童が好んで学習するコンピューターを使った新聞作りを実践することにした。

また、単元の目標にある“知らせたいことが正確に、かつ効果的に伝わるような学級新聞”を作るためには、「見出し」「割付」「絵」「文章」等のレイアウトを工夫することが必要不可欠となってくる。普段の新聞作りであれば、難しいことであるが、コンピューターを活用すれば、大きさや配置を自由に変えることが可能である。情報機器を使う大きなメリットである。

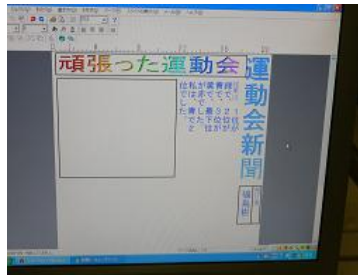
5．実践の概要（第4時～第7時）

第4時（見出しの作成）



プロジェクターを使っての、見出し作成の説明。なお、今回はレイアウトを工夫しやすいよう、ワープロソフトではなく、ホームページ作成ソフトを使用した。テキストボックス感覚で、文章を作成することが可能である。

第5時（文章の作成）



見出しの配置を考えながら、記事を作成する。ローマ字をまだ学習していないため、文章の作成では、ソフトキーボードを活用した。

第6時（絵の作成）

ペイントソフトを使って、記事の絵を描く。

第7時（新聞完成）



実際の児童の作品



絵を挿入し、マウスを使いながら、レイアウトを整え、完成させる。

6．成果と課題

- 児童が楽しく新聞製作に取り組むことができた。
- 作品を仕上げたときの満足感を味わうことができた。
- 時間数の配分が難しく、計画時間内で終わらない児童が多かった。
- 複数の児童が協力して作品を完成させることが難しい。